

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100499		
法人名	メディカル・ケア・サービス福島株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム福島桜木町		
所在地	福島県福島市桜木町13番30号		
自己評価作成日	令和2年2月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和2年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家グループホームは、全国各地に展開し、法人の運営体制を活用して事業運営をしております。
運営推進会議の実施、ご入居者様の状況、事故報告の説明、ご家族代表、民生委員、地域包括の方々と連携を取り地域密着を重視しております。
介護フェア、単独外出訓練、避難訓練を実施し地域の方々の協力を得て、地域の方々への認知症の理解を広めております。
家庭的な環境の中で、その人らしい生活を送って頂ける様、ご利用者様一人一人に寄り添った介護を提供しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ゴミ出しや食事の準備、洗濯物たたみなどの利用者の日常生活行動をリハビリ活動として捉え、積極的に活用することに利用者の運動能力の維持に取り組んでいる。
利用者が望めば毎日、いつでも入浴出来るよう入浴時間や食事時間を固定せず、職員は利用者に対応できるようざっくりとした態勢でケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営理念を事務所に掲示。 朝礼時に唱和を行い全スタッフに共有している。	事業所理念を基にしたユニットの理念をそれぞれ作っている。毎月の職員会議で出来ている点、出来ていない点を話し合っている。ユニット毎に、個人毎に反省し、修正は緊急性のあるものから実行するなど、理念の共有と実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の掃除活動や消防訓練、お祭りに参加している。 毎月民生委員ボランティアが来所し交流を図っている。	町内会に加入して地域の防災訓練に参加している。中学生や高校生、短大生の職場体験に協力し、玉すだれやオカリナ演奏などのボランティアを受け入れている。散歩では住民と挨拶し合うなど日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふくふくオレンジフェスタ、ラン伴への参加。 介護フェアの開催。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、民生委員の方々やご家族様から意見を頂いている。	運営推進会議ではヒヤリハットや事故の発生について報告、行事予定などを説明している。感染症対策で緊急連絡先の優先順位の見直しを行い、ナースコールの乾電池誤飲防止のため管理方法を変更するなど意見を反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム内で起きた事故の内容を速やかに口頭報告し、事故報告文書作成後に届出を行っている。	骨折事故などの発生状況を市長寿福祉課に報告している。市役所に近いので徒歩で相談に出掛けている。感染症対策では面会や外出制限など、市の見解を書面で貰い、介護給付の加算算定などは電話で相談するなど連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時と3ヶ月に一度ホーム内研修、虐待・身体拘束廃止委員会会議を実施。 議事録の回覧により全スタッフへ情報を共有し、一人一人に意識付けを行っている。	職員は各ユニット会議でチェックシートを使用し、身体拘束にあたらぬか検討している。玄関は、日中は施錠はせず、車イス利用者を固定イスに移動を促したり、睡眠導入剤等も行動抑制の観点から薬に頼らないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフは入社時と3ヶ月に一度ホーム内研修に積極的に参加。 虐待・不適切なケア・身体拘束チェックシートを定期的に行い、全スタッフへの共有と個別指導をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修会に参加し、スタッフへ情報を共有している。 行政との連携によりスムーズに制度利用を開始できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、改定等があった際は、質問や疑問に答え十分な説明を行い理解・納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回本社からの家族アンケートを実施し意見や要望を事業所の運営に反映させている。 年一回家族会を開催し、生の声を聞かせて頂き反映させている。	家族からは面会時に直接聞いたり、アンケートを活用して運営に反映させている。帰宅願望者を家族が毎週、面会して外食していたが、負担が大きいのので回数を減らして家族負担を軽減したり、利用者の入浴回数を増やして清潔保持を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議に管理者が参加し、全スタッフに意見を情報共有し反映させている。 年一回本社からの職員アンケートを実施、4ヶ月に一度ヒヤリングを実施している。	管理者は毎月の職員会議に出席して職員意見を聞いている。年3回の個人面談では個人ごとのヒヤリングも行っている。介護度の進展に備え、オムツ利用の技術アップの必要性が求められ、研修会を実施するなど意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休・連休・有休等でプライベート時間の確保。 安心して働く事が出来るよう、就業規則の見直し働きやすい環境作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な研修会や勉強会の実施。 法人負担の資格取得制度を取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や研修会に参加し交流を図り、お互いの良い所を取り入れる等のサービス向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の実態調査にて、ご本人とご家族様から聞き取りを行い、アセスメントシート作成とケアプラン作成に意見を反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査にてご家族様より聞き取りをさせていただき、入居後も定期的に要望をお聞きし、ホームで出来ること、出来ないことをお伝えし、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査にてご家族様から聞き取りを行い、必要なサービス内容をケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の生活歴を把握し、人生の大先輩であることを尊重している。 ご入居者様に教えて頂く事が多くある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙でホームでのご様子をお伝えし、面会時には個人記録を閲覧して頂いている。 定期的な通院はご家族様にお願いし、外出の機会をつくっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様が以前住んでいた町内の情報誌を持って訪ねて来られたり、友人知人やご親戚の訪問もある。 家族と共に墓参り、お食事を楽しんでいるご入居者様もいる。	面会者には友人や旧居宅担当者がいて関係を継続している。居室でお茶を提供したり、相談室で近況報告を交えて話し合ったりしている。友人知人と外食を楽しんだり、家族の協力で法事に出かけたり正月に自宅で過ごしたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事全般のお手伝い、買物や散歩・ドライブなど、一緒に外出して頂いき関わりを持って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて入院や転居されたご入居者様のお見舞い、面会などでご家族様よりお話を聞くことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なアセスメントの更新や普段のコミュニケーションを多く取りながら、ご入居者様の要望を全スタッフで情報共有をしている。	本人からの意思表示は少なくなっているが、少ない思いをくみ取り、家族の意向を大事にしている。職員は見守りで気付いた利用者情報について意見を交わし、本人本位に検討し取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者様個々のペースを大切に、スタッフが基本情報を基に心身状態や生活歴を共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者様個々の介護記録、ホーム日誌に必要な情報を記録して、スタッフ間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一回のユニット会議時にご入居者様個々の話し合いを行い、介護計画書を更新している。ご家族様には面会時にお困りごと等を聞き、介護計画書に反映している。	介護計画作成者のみでなく医師や看護師の意見も踏まえ居室担当者、家族の意見を集めてチームとして対応している。変化がある場合、その都度見直し、課題点を共有して計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録とモニタリングの作成により情報を収集し、職員間で情報共しながら実践できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活から生まれるニーズに対し、常に柔軟性のある対応に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある商業施設等を利用し、暮らしを楽しむ支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の協力により定期的にかかりつけ医院へ受診をされ、適切な医療を受けられている。	本人、家族の希望により継続的なかかりつけ医院を受診している。往診対応状態の場合は、在宅専門医院を紹介している。家族対応の場合は利用者状態を口頭説明したり書面を医師に渡し、意見を貰っている。訪問医師の診察結果はファックスで家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護師による訪問と24時間365日連絡が取れる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師・看護師・医療相談員との密な情報交換により、早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化・看取り指針の説明を行い、早い段階で本人・家族等の意向を確認し、協力医師との連携により必要な支援ができています。	契約時に出来ること、出来ないことを説明している。家族、利用者本人の希望により看取りまでの対応を行っている。変化ある場合、心構えや連絡体制の確認を含めて方針の共有と支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、緊急時の対応研修を実施。職員はマニュアルに基づき訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防計画・自衛消防組織に基づき、訓練を実施し、避難方法を身に付ける体制を築いている。	避難訓練は夜間想定を含めて実施している。マットレスを使用した避難誘導訓練を行い、火元を想定した区画避難も実施している。水害での避難時には2階への垂直避難を行っている。備蓄の水と食料は数日分確保している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待や不適切なケア、プライバシーの侵害につながらないよう研修を行い、意識を持って対応している。	言葉かけはさん付けを基本に行い、居室への入室はノックと声かけを励行している。本人の発言にはダメなどの否定しない呼びかけをし、安心する声かけを心がけている。接遇の研修会を新人研修の時と年1回の法人地域研修で行い、マナーの向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話を通じて、ご入居者様個々の表現や意思決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様個々の希望を大切にし、ご自分の家で生活していた暮らしの延長線上に近づくように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご入居者様個々に衣類調整のお手伝いをさせていただき、その人らしい身だしなみをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付けのお手伝いを積極的にして頂き、楽しい食事と感じて頂けるように努めている。	メニューは利用者からの希望を聞きながら作っている。楽しんで参加できるよう能力に応じて食事の準備を手伝ってもらっている。ホットケーキやクリスマスのデコレーションケーキなどおやつ作りも利用者が準備から後片付けまで積極的に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別生活チェック表で食事量・水分量を把握し、栄養状態や食形態等は医師に相談して工夫をして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方は夕食後に取り外して洗浄剤を使用している。 毎食後の歯磨きはご自分で行って頂き、出来ない方はお手伝いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立歩行が可能な方は、お一人での排泄。転倒のリスクのある方は見守りを行い、車イスの方も立ち上げられる方はトイレにて排泄介助を行っている。	トイレで排泄出来る、を目標にしている。自立歩行を助け、車椅子使用者でも立ち上がりが出るよう、固定イスに座る、掴まり立ちができる日常のリハビリ活動を取り入れている。排泄記録を参考に、目配りに努め、さりげない誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師に相談し、水分を多めに取ったり運動をおこなって頂くよう支援している。便秘が3日以上続くような場合は下剤の投与も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯を決めずに入浴のお声がけを行い、断れた時は次の日にしたり、個人のタイミングに合わせた支援をしている。	利用者の希望で毎日利用出来るよう職員の作業スケジュールをゆったりと組んでいる。嫌がる人には人を代えたり、体重測定の流れで入浴を勧めたりして対応している。季節によっては、ゆず湯や菖蒲湯を提供して楽しい入浴になるよう行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息や夜間の睡眠はご入居者様個々の状態に合わせてお休みできるよう支援している。なかなか眠れない方とお話をしたり、温かい飲み物の提供を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを完備し、薬の種類や効果・副作用が記入されている情報が個人ファイルにあり、いつでも確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の生活歴や現在の状況に合わせて、テレビを楽しむ方、外出・外食を楽しむ方、お部屋で過ごされる方、個人に合ったサービスを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の同伴で普段はなかなか行けない場所へ外出されている。個々の希望を把握し、外食・買い物・ドライブ等も行っている。地域の行事にも参加させて頂いている。	天候が良ければ近所の運動公園まで散歩している。車椅子利用者も元気な人が押しながら出かけている。食材の買い出しにも週数回、同行している。花見や紅葉狩りに運動公園や四季の里などにドライブに出掛け、外食も楽しめる支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を管理できる能力のある方は、外出した際にお金を所持し使用して頂いている。ご自分で管理したいと希望されている方の意思を尊重している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望があった際は、ホーム内の固定電話を自由に使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はご入居者様がお作りになった展示物や季節感のある装飾や写真・お花などを飾らせて頂いている。	壁には利用者が豆まきしている写真を展示し、季節ごとに制作した個人の作品コーナーを設けている。広間には雛の段飾りが飾られ、季節感が溢れている。外部からの採光はカーテンで調整し、エアコンと加湿器で居心地良く過ごせられる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご入居者様同士が席に座れるように配慮し、好きな場所で過ごし、会話も多く笑い声が聞こえる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	ご自宅で使用していた家具や愛着のある物品を居室空間で使って頂けるよう、ご家族様に相談して持ってきて頂いて環境整備を行っている。	利用者はベッドや昇降が困難な人は簡易畳と蒲団を居室に持ち込み、窓には自分好みのカーテンを掛けている。机やテーブルにはテレビや家族写真、飾り物のぬいぐるみなどを思い思いに配置し、本人が過ごしやすい部屋づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーで、職員はご入居者様個々の能力を把握し、できることへの自立支援とできないことへのお手伝いを日々行っている。		